



今日のキーワード 検査手法の多様化などから『新型コロナ検査』が加速か？

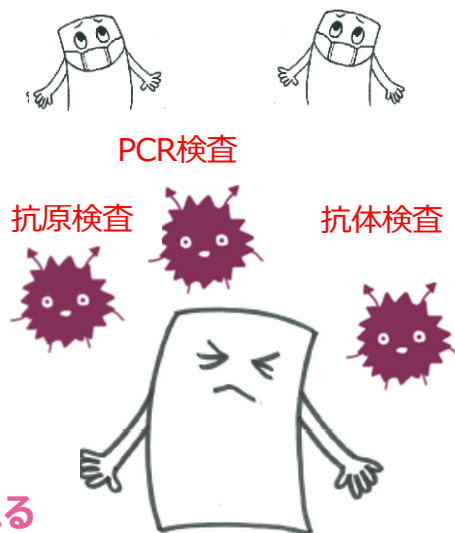
国内での新型コロナウイルスの新規感染者数が大きく減少していますが、国内の『新型コロナ検査』の件数は少なく、今後に備える意味からも検査体制の拡充が急務となっています。こうした中、既に実施されている「PCR検査」に加えて、簡易検査キットを使って短時間、低コストの「抗体検査」や「抗原検査」、医療従事者の感染リスクが小さい唾液での「PCR検査」などが始まり、検査数の加速が期待されています。

ポイント1 検査手法の多様化により、『新型コロナ検査』の拡大が期待される

- 国内の「PCR検査」の検査数が伸び悩んでいます。のどの奥などの粘液を採取する「PCR検査」は、機器や試薬の不足、技術が必要なため人材に限られることや医療従事者の感染リスクなどが増加のネックになっていました。そのため「PCR検査」の拡充に加えて簡易検査など手法の多様化も求められていました。
- 厚労省は5月13日に簡易検査キットを使って診療所などで実施でき、新型コロナのたんぱく質を調べて感染を判定する「抗原検査」を認可しました。また唾液を検体に使うPCR検査法も5月中にも認める方向です。唾液による採取は簡単で、医療従事者への感染リスクも小さくなります。血液から新型コロナへの感染歴を調べる「抗体検査」も始まっています。企業の取り組みも進み始め、検査数の増加が期待されます。

ポイント2 国内企業の取り組みも進展

- 5月13日、みらかホールディングスは子会社の富士レボが新型コロナウィルスの抗原検査キットの製造販売承認を取得したと発表しました。約30分で感染しているかが判定でき、陽性の場合には確定診断として扱えます。一方、陰性の場合には「PCR検査」と併用することが必要となります。宇部工場ですべて20万検査分の生産体制を構築済みです。
- タカラバイオは唾液から新型コロナウイルスの感染の有無を調べるPCR用検査試薬を発売します。約1時間で検査結果が判明できます。厚労省の承認などを経て発売する見通しです。既に月200万検体分の量産体制を整えています。



今後の展開 十分な検査結果に基づいた対応が望まれる

- パンデミック（世界的大流行）の第2波も予想され検査体制の構築が必須の課題となっています。目的に応じて検査をうまく活用して『新型コロナ検査』が拡充していくことが期待されます。「抗原検査」は「PCR検査」より精度は劣りますが、陽性者を洗い出すことが可能で「PCR検査」を補完する簡易診断として有効です。また新型コロナへの免疫の有無を調べる「抗体検査」は、感染の実態を把握するのに有効です。十分な数の検査データに基づいて感染症対策と経済活動維持とのバランスをとった対応が行われていくことが望めます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

**ここも
チェック!**

2020年4月 2日 新型コロナ感染拡大で注目が高まる『オンライン診療』

2020年3月25日 注目される『新型コロナウイルス治療薬』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。